

## グルマーイ・チッドヴィラーサーナンダの教え あなたの内側と外側の風景を新たにする

問い掛ける、粘り強くある、理解する...

「私はここで何をしているのだろうか?」

「なぜ私はこの惑星に現れたのだろうか?」

「自分が知るべきことを、どうすれば知ることができるだろう?」

これらの「何」「なぜ」「どうすれば」は、精神的な向上と自己超越への真の欲求から生じるものでなければ、あなたの動揺した強迫観念になりかねません。これらの謎めいた問いに対する答えは、あなたの肉体としての脳と、あなたの大いなる自己との関わりからもたらされなければなりません。それらが粘り強く協力し合うことによって、あなたは大いなる心があるあなたの探究の証人であることを確信します。あなたは、タルカ・ヴィタルカ——これらの「何」「なぜ」「どうすれば」に答えようとするときに探究する知的な議論や反論——が、あなた自身の大いなる自己から生まれ、そしてあなた自身の大いなる自己へとあなたを連れ戻してくれることを確信します。

インドの教典をよく見ると、質問と回答、議論と反論、反論と反証に満ちています。この素晴らしい例は、ジャナカ王と賢者ヤーグニャヴァルキヤの物語を伝える『ブリハダーラニヤカ・ウパニシャッド』にあります。

物語の中で、王は賢者に質問を投げ掛けます。

人間にとって光となるものは何か?

ヤーグニャヴァルキヤがそれは太陽だと答え、するとジャナカは太陽が沈むとどうなるのかと尋ねます。このようにして、ジャナカとヤーグニャヴァルキヤは問答を繰り返しながら、ジャナカは、さまざまな光源が消えた時、何が光として機能するのかを問い続けます。

ついに、賢者はジャナカに決定的で反論の余地のない答えを提示します。

人間にとって光となるものは、大いなる自己である。

このような問答のプロセスに取り組むには知性を使うことが欠かせませんが、実際に人が到達する理解は、知性的なものだけではありません。インドの偉大な詩聖たちは、このことをよく知っていました。例えば南インドでは、バサヴァンナやアッラマ・プラブといった聖人が、探究者たちに精神的生活に関する事柄について議論するよう積極的に勧めました。これらの討論の目的は、探究者が自分のマインドと話す力を使うことで、音、言葉、言い回し、構文などのもつれから抜け出せるようにすることでした。

それはサーカーラ・ルーパからニラーカーラ・ルーパになるということ。

それは形あるものから

形のないものへと

移るということ。

バサヴァンナがこれらのサツァングのために建てたアヌバヴァ・マンタパ、「神聖な体験のホール」では、知性と大いなる心との間で、注目に値する重大な闘いが繰り広げられました。質問をするのが探究者たちのこともあれば、時には師のこともありました。探究者からの質問への答えもまた、全方向から——師から、他の探究者から、さらには内側から啓示を得た質問者自身から——もたらされました。しばしば、他の聖人や高貴な存在もこれらのサツァングに出席

し、活発な議論を楽しみ、参加することができました。ある注目すべき出来事もありました。バサヴァンナとアッラマ・プラブが開いていたサツツァングへの参加許可を得るために、詩聖アッカマハーデーヴィーが一連の質問に感動的に答え、シヴァ神——または彼女が呼ぶところのチェンナマリカールジュナ神、「ジャスミンの花のように白く美しい神」——との一体性を証明したのです。

このようにして、質問はなされ、答えられました。議論は活発に交わされ、討論は白熱し、論議は深まり、複雑さと勢いを増していきました——

無になるまで。

もう言うべきことは何も。もうなすべきことは何も。

ただ…

光のみ！

そしてすべては、永遠に響き渡る光り輝く静寂の中に集約したのです。

幾世代もの探究者たちが切望してきたのが、この響き渡る静寂、この至高の体験です。マーヤーとバーヴァ・サムサーラを渡っていくための熟練と巧みさを得られるよう彼らがこの惑星に生きている間に知りたいと願っているのが、この真理です。

もし、これがあなたが手に入れたいと願う体験であるなら、そこに至るにはプロセスがあることを受け入れなければなりません。バーバ・ムクターナンダは、人々が真理を知るための「近道」をいかに望んだかについてよくサツツァングで話しました。人々は真理を早く手に入れたがり、そして真理をすぐに理解できるよう真理そのものが「短く」て簡潔であることを望んだ、とバーバは

言ったものです。しかし、バーバは説明しました。「真理は、同じ真理であり続ける。だから、あなたはそれを、あるがままに理解しなければならない」

この例えについて考えてみてください。もし身体の健康状態を維持したいなら、あなたは定期的に運動しなければなりません。あなたは筋肉をつけたり強くするために、コツコツと努力しなければなりません。あなたの骨格の構造や身体の他の部分がどんな状態であろうと、それに頼っているだけでは不十分です。

同様に、あなたが精神的な知識を獲得し、それを永続的に維持したいと思うのなら、「チェックアウトする」——聖地に行った、あるいは神聖な教典を数行読んだなどだけで、すべてが解決されたと考えること——は機能しません。誰かや何かがあなたのために仕事をしてくれる、自分の指一本動かさずに自分の目標を達成できるなどと、期待することはできません。そうではなく、あなたの努力が必要なのです。あなたの認識能力を使わねばなりません。あなたは、恵みを受けたその素晴らしいマインドを使うべきです。

そうする時、あなたが発見するのは、あなたの壮大な想像をはるかに超えるものでしょう。あなたの果敢な努力は、驚嘆すべき恩恵と相まって、真にダイナマイトの力となります。この力に後押しされて、あなたはノウハウを見だし、あなたの問いに答えるロードマップを作ることができるでしょう。

そうです、問い掛ける、粘り強くある、そしてそれから、理解する。ノートに——あるいは心の中でも、自分自身のマナナの形で——記録し続けてください。あなたのサーダナー・サークルで議論を続け、調和の場所に到達して自分の意志で内なる休息を取ることができるようになるまで、この道を歩み続けてください。

かつて私がサツァングで話した、面白そうな粘土の塊を見つけて家に持ち帰った旅人の物語があります。すぐに家全体がうっとりするような香りで満たされます。香りが粘土から出ている

ことに気づいたその人は、粘土にそのことを尋ねます。粘土は、バラと一緒にいたので香るのだと説明します。

仲間の探究者との交わりとはこういうものです。多くの場合、自分のサーダナーがどこまで進んでいるのか、自分がどれだけ到達しているのか、見ることも認めることもできません。しかし、志を同じくする他の生徒と一緒にいると、彼らはあなたのタパシヤーの成果を指摘することができます。彼らの言うことが的を射ていれば、あなたはそれを感じるでしょう——時にそれはかすかであり、別の時はあなたの内側でシャクティが完全に爆発するものです。この知識——自分は必要なものを得ている、自分はまさにそこにいるという知識——が内側でますます培われると、あなたのサーダナーは自ら進むようになります。あなたが自分の旅を進める中で、探究者の仲間たちはまた、あなたが道に迷わないように助けてくれるかもしれません。あなたがどこへ向かっているのか、そしてその道であなたが進むべき所はどこなのかを示すことができるのです。

この教えの冒頭で、私は皆さんが自問しているかもしれない三つの問いを提示しました。最後の問いは、「自分が知るべきことを、どうすれば知ることができるだろう?」でした。あなたはこの問いに対して、サーダナーのさまざまな時に、さまざまな答えを受け取るでしょう。そしてそれらの答えが、まさに正しいと分かるでしょう。

今ここで、自分を中心に置くために、心の中で、あるいは声に出して、次のように言ってみてください。

「私の問いを解明する返答と、私が向かっている明確な方向を見いだせますように」

「他の人が私に指摘し、私自身について気づかせてくれたことに対して、耳を傾け、敬意を払い、熱心さと受容性を持って対応できますように」

「たとえ私とその偉大さに気づいていない時でも、他の人が私に降り注いでくれる善意や私の存在にとっても優しく流れ込む恩恵を、決して拒否しませんように」

「私のマインドが、人生において神の御手の完全さの下に保護されますように」

「私がここにいることは、これまでに起きた中で最大の冒険だと認識できますように」

～グルマーイ・チッドヴィラーサーナンダ



© 2024 SYDA Foundation®. 著作権所有。